

中国の落葉果実事情(リンゴ、ナシ、ブドウ)

[米国農務省GAINレポート 2025年12月2日](#)

これは米国農務省海外農業局北京事務所(中国)が作成した「落葉果実年次報告書」の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

<リンゴ>

表1 中国の生鮮リンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮)	2023/2024		2024/2025		2025/2026	
販売年度の始まり	2023 年 7 月		2024 年 7 月		2025 年 7 月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	1,928,460	1,928,460	1,910,000	1,907,100	0	1,888,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	46,500,000	46,500,000	48,000,000	49,300,000	0	47,000,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	46,500,000	46,500,000	48,000,000	49,300,000	0	47,000,000
輸入量(トン)	87,800	87,800	105,000	116,000	0	120,000
総供給量(トン)	46,587,800	46,587,800	48,105,000	49,416,000	0	47,120,000
国内消費量(トン)	45,676,700	45,676,700	47,105,000	48,452,000	0	46,140,000
輸出量(トン)	911,100	911,100	1,000,000	964,000	0	980,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	46,587,800	46,587,800	48,105,000	49,416,000	0	47,120,000

生産

当事務所は、2025/26販売年度(年度、7月～6月)における中国のリンゴの生産量を、当事務所の2024/25年度改定推計値から約5%の減少となる4,700万トンと予測する。

この予測では、地域ごとに生産量の大きなばらつきが見られる。山西省では、好天により生産量が20%増加すると予想される一方、陝西省と甘粛省では干ばつにより収量が概ね5%減少すると予測される。山東省では、栽培面積の減少と6月から7月の暑さや8月から9月の過剰な降雨等の不良な生育条件により、生産量が10%以上減少する見込みである。他方、遼寧省では園地管理の改善と安定した天候により、2025年の生産量がわずかに増加した。

業界アナリストによると、2025/26年度には干ばつ、強風、高温等の悪天候が2大産地である陝西省と山東省を含む主要産地に悪影響を及ぼし、市場性のある高品質な果実の割合の減少や全般的な小玉化が見られた。さらに、リンゴの栽培面積は減少を続けている。特に山東省のような発展した地域で顕著で、労働力不足と穀物安全保障に関連した農地政策が影響している。

国の農地政策では、「基本的な農地」で古い果樹が伐採された際には、再び果樹を植えることが禁止されており、生産者は代わりに穀物を植えることが義務付けられている(GAINレポート[CH2023-0026](#)参照)。ただし、地方政府によっては、古い品種から同じ品目の改良された新品種への改植が許可されることもある。国の農地政策は果樹栽培面積の増加を制限し、基本的な農地とみなされない既存の栽培面積の中での区画整理や収量の改善を促進している。

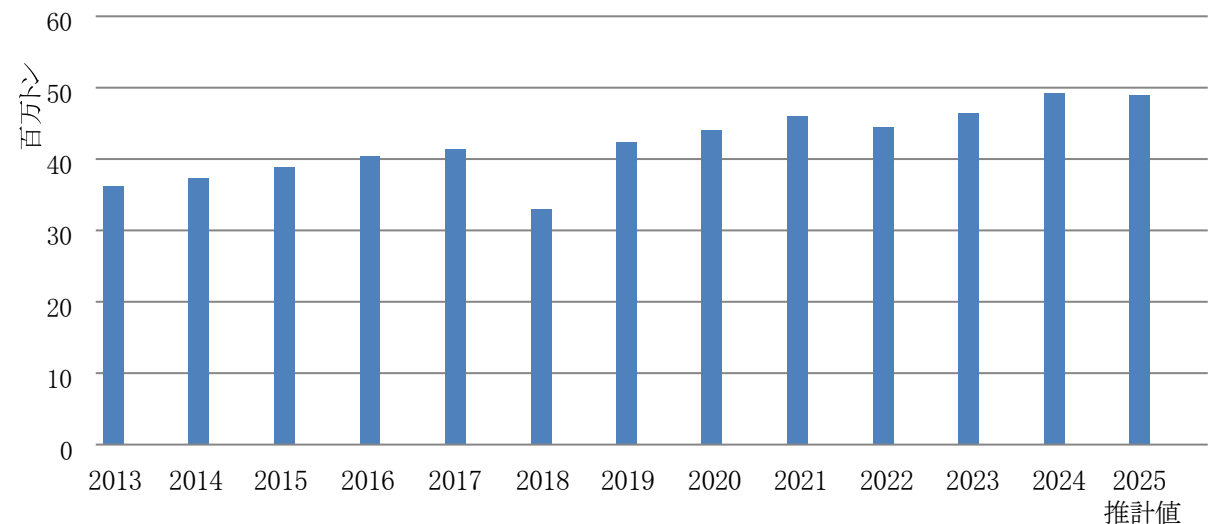
リンゴ産業は現在、品質と風味を重視する消費者トレンドの変化に牽引され、品種の近代化と品質の向上に注力していることが特徴的である。完全に新しい品種に関する公式な報告書はないが、生産性の低い古い果樹が補植または改植され品種の転換やアップグレードが進行している十分な証拠がある。例えば、大連

では、^{ガイナスゴールド}維納斯黄金が導入され、^{ルオチュアン}陝西省の洛川県では最適化されたふじ品種が採用されている。その他の産地では、^{ルイシユエ}瑞雪、^{ルイシヤンホン}瑞香紅、^{チンツイ}秦翠、^{ホンルメイ}紅魯梅等の近年開発・採用された品種が推奨されている。しかし、依然としてふじが支配的であり、総生産量の70%を占めている。一方で、地方政府は有機肥料の施用を促進するなど、総合的な品質向上を推進している。地方政府の取り組みは、洛川県等の地域で成功を収めており、リンゴのブリックス値が15まで上昇した。

業界は経営手法の改善が進む中でも、相変わらず構造的・経済的な課題をいくつも抱えており、特に労働コストの上昇が最も深刻である。農村部では若年労働者の不足が大きな懸念であり、地方政府は高齢の果樹生産者の農作業をカバーする社会的サービスの提供を促進している。機械化は労働力不足の緩和に寄与するものの、果樹園が小さく土地が断片化されているため、その導入が非効率的である地域も多い。

これらの問題を克服し収量を最大化するため、陝西省などの西部地域の地方政府は、矮化樹及び密植栽培の採用を推進しており、これにより収量水準を従来に比べて倍増（1ヘクタール当たり30～37.5トンから60～75トンに）させるとともに、果実の品質の向上、労働コストの削減、及び機械化の促進を図っている。一方で、空調付き貯蔵庫やインテリジェント選果ライン等の近代的なインフラの整備と改善も、効率向上と収穫後処理の改善に向けた業界の取り組みを支えている。

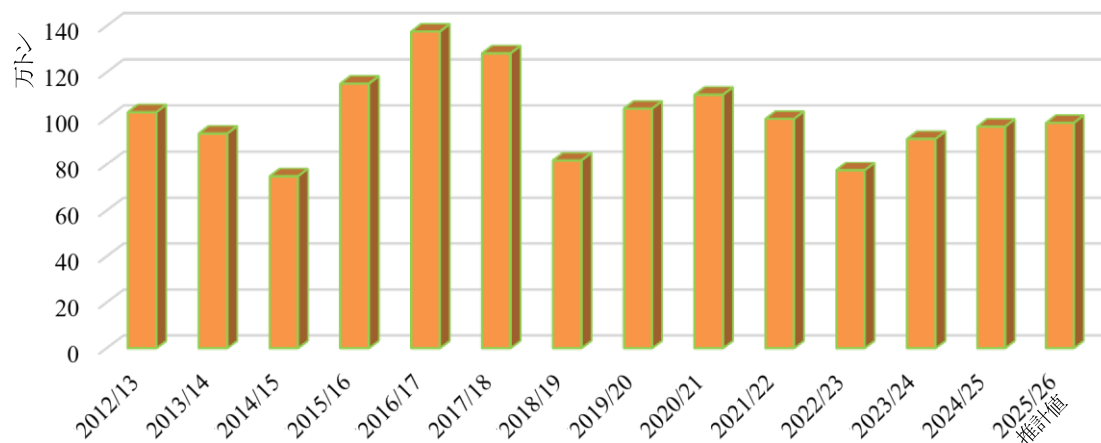
図1 中国のリンゴ生産量



出典：国家統計局(NBS)、当事務所

輸出

図4 中国の販売年度(7月～6月)別リンゴ輸出量



出典：Trade Data Monitor, LLC、当事務所

当事務所は、中国のリンゴ輸出が2025/26年度も引き続き改善すると予想する。東南アジアは、中国産のリンゴにとって最も重要な市場であり、強い消費者需要が特徴である。業者らは、東南アジアの消費者は味と価格を重視し、果実の見た目や大きさ、甘さにはあまりこだわらないと指摘している。そのため、中国産リンゴ、特に小玉で価格が低いものはこの需要に完璧に応えている。さらに、競争力のある価格を提供する中国産リンゴは中央アジアやロシアでも市場シェアを拡大している。国内では、2025/26年度の悪天候により輸出用に出荷可能な低品位のリンゴが増加した。

<ナシ>

表2 中国のナシの生産需給統計

ナシ(生鮮)	2023/2024		2024/2025		2025/2026	
販売年度の始まり	2023 年 7 月		2024 年 7 月		2025 年 7 月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	904,000	904,000	900,000	892,000	0	890,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	19,850,000	19,850,000	20,200,000	20,980,000	0	20,500,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	19,850,000	19,850,000	20,200,000	20,980,000	0	20,500,000
輸入量(トン)	11,500	11,500	15,000	8,800	0	6,000
総供給量(トン)	19,861,500	19,861,500	20,215,000	20,988,800	0	20,506,000
国内消費量(トン)	19,256,600	19,256,600	19,555,000	20,335,800	0	19,786,000
輸出量(トン)	604,900	604,900	660,000	653,000	0	720,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	19,861,500	19,861,500	20,215,000	20,988,800	0	20,506,000

生産

当事務所は、中国の2025/26年度(7月～6月)のナシの生産量を2,050万トンと推定する。この予測は、当事務所の2024/25年度の改定推計値と比べて2%の減少となる。地域的には、最大の産地である河北省で安定した収穫が予想される。中国南部の主要産地である安徽省の生産量は、好ましい天候条件と栽培技術の改善に支えられ、安定した増加傾向を示している。一方、北部の主要産地である山東省は、早い時期の干ばつにより生産量が5%減少すると予想される。夏の干ばつや暑さは陝西省の生産にも悪影響を及ぼしている。中国全土のナシ栽培面積は、国内需要の減少により、徐々に縮小すると予想される。

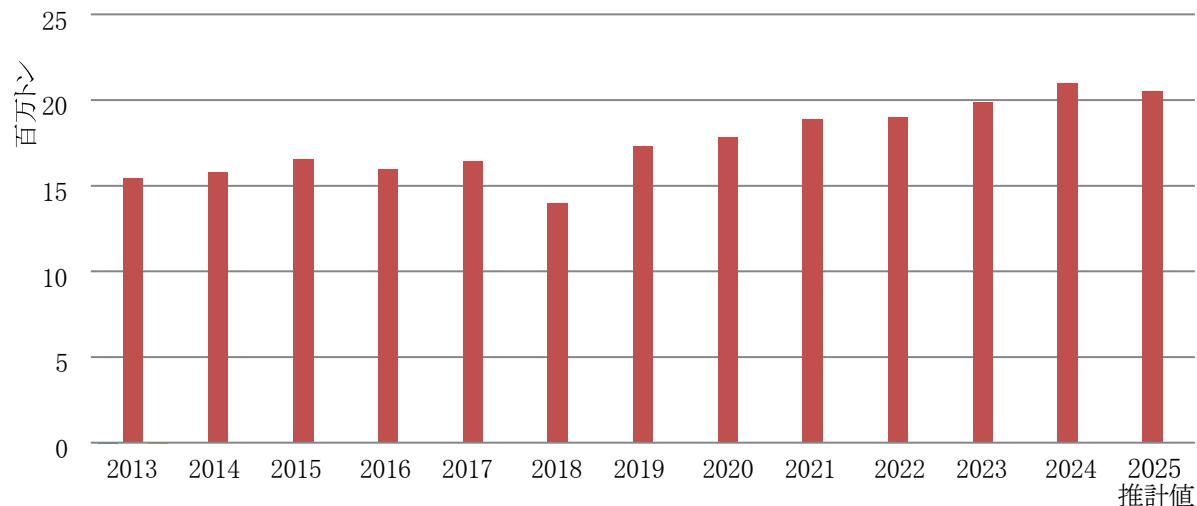
果実の品質は産地によって大きく異なる。安徽省では、果樹園管理、害虫防除、灌漑システムの改善により、昨年に比べて品質が向上した。しかし、河北省、山東省等の北部の産地では高温と干ばつにより、大玉のナシの割合が減少した。さらに、陝西省及び山東省で収穫期に続いた長雨は、果実の食感と風味に悪影響を及ぼす可能性がある。

生産者は甘みが強く、果皮の色が鮮やかな新しい品種の導入試験を積極的に行っている。雪梨^{シェーリー}、黄冠梨^{ネバングアンリー}等の伝統的な品種は徐々に人気を失っている。安徽省政府は、湖蜜^{フーミー}、華桐^{フアトン}、華金^{フアチン}(華金)、望香翠^{ワンシャングワイ}等の高品質品種の導入を推進しており、今後数年で栽培が増加するものと見られる。より新しい翠蜜^{ツイミー}、長梗梨^{チャンゴンリー}、紅香酥^{ホンシャンスー}、バートレット^{ナシグオ}、南国^{チウコエ}、秋月^{フアスー}等の特産のナシも依然として人気がある。(※「華酥」等の誤記の可能性はある)

ナシ産業は供給過剰と国内消費の停滞に苦しんでいる。リンゴ産業と同様に、労働力、投入資材、輸送のコスト上昇が、若年及び熟練労働者をはじめとする労働力不足の蔓延と相まって、生産をより困難にしている。また、ナシは果皮が傷つきやすいため、収穫後処理に特有の課題が生じる。この特徴により、選別作業は自

動選果機ではなくコストのかかる手作業に頼ることとなり、全体的な収益性に悪影響を及ぼしている。これらの構造的な課題や制約にもかかわらず、ナシは依然として重要な農産物であり、その多くが輸出専用生産されている。

図5 中国のナシ生産量

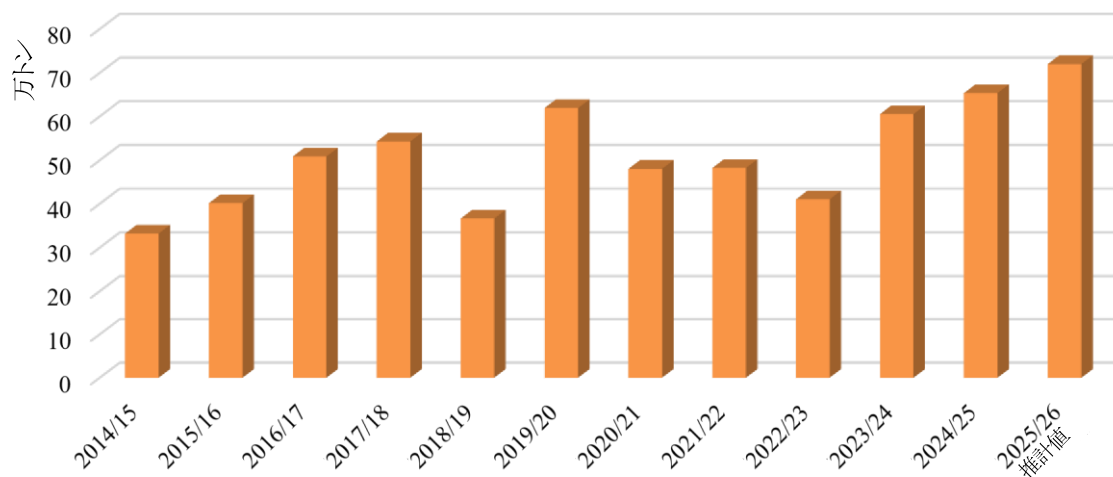


出典：国家統計局(NBS)、当事務所

輸出

中国のナシ輸出は、来年も増加を続けると予測される。ナシの梱包業者は、主要輸出先への出荷のために積極的にナシを買い入れている。主な輸出市場は東南アジア、特にベトナム、タイ、インドネシアである。品質の低いナシは、ビルマ等の市場に送られることも多い。その他の輸出先は中東、中央アジア、ロシア等である。中でも、ロシアへのナシ輸出量は過去2年間で急増し、増加傾向を示している。アジア系のナシはEU域内のアジア系住民の間で人気が高まっている。中国は長らく生鮮ナシの世界最大の供給国であり、Trade Data Monitor のデータによると、2024年の輸出量は世界の貿易量の30%以上を占めた。

図8 中国の販売年度(7月～6月)別ナシ輸出量



出典：Trade Data Monitor, LLC、当事務所

<ブドウ>

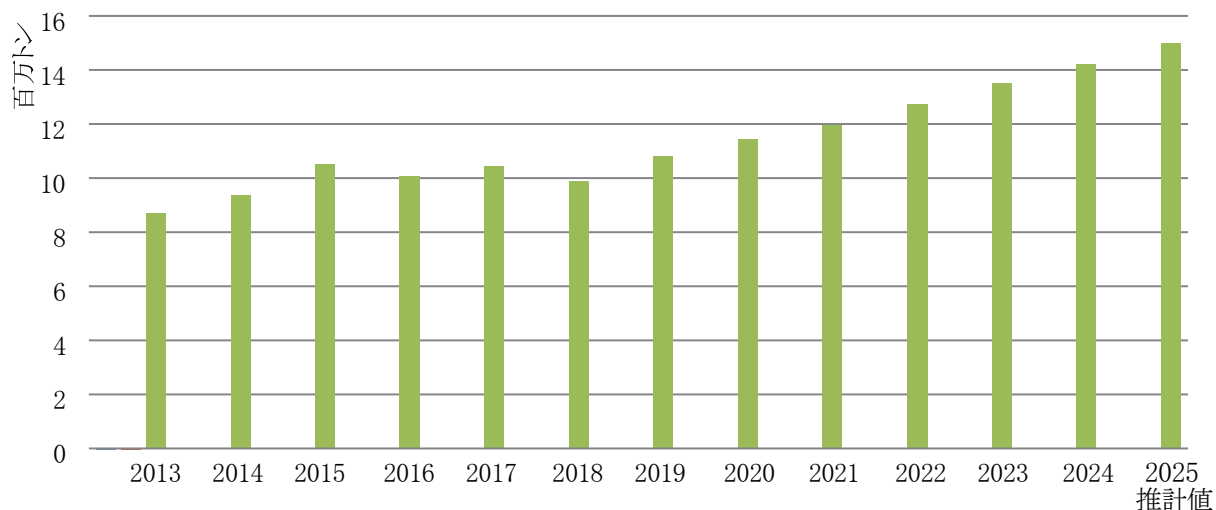
表3 中国の生食用ブドウの生産需給統計

生食用ブドウ(生鮮)	2023/2024		2024/2025		2025/2026	
販売年度の始まり	2023 年 6 月		2024 年 6 月		2025 年 6 月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	728,000	728,000	725,000	725,000	0	710,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	13,500,000	13,500,000	14,200,000	14,200,000	0	15,000,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	13,500,000	13,500,000	14,200,000	14,200,000	0	15,000,000
輸入量(トン)	118,500	118,500	125,000	103,500	0	98,000
総供給量(トン)	13,618,500	13,618,500	14,325,000	14,303,500	0	15,098,000
国内消費量(トン)	13,119,900	13,119,900	13,725,000	13,638,500	0	14,328,000
輸出量(トン)	498,600	498,600	600,000	665,000	0	770,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	13,618,500	13,618,500	14,325,000	14,303,500	0	15,098,000

生産

当事務所は、中国の2025/26年度(6月～5月)の生食用ブドウの生産量を、前年比約6%増の1,500万トンと推定する。北部の産地での天候不良にもかかわらず、多くの果樹園が雨除け栽培等の園芸用保護施設に投資していたため、全体的な生産量は引き続き増加した。一方、中国南部のブドウ生産は、好ましい気候条件により今後も増加が続くと予想される。しかし、8月から9月の過剰な降雨により、北部地域で栽培されるブドウの風味が悪影響を受けた。

図9 中国の生食用ブドウ生産量



出典: 当事務所

中国のブドウ産業は、広大な面積、生産量の多さ、さらに周年供給を可能にする先進的技術の統合を特徴とする。2024年以降、供給過剰によりブドウの栽培面積の拡大は停止したが、生産量は増加傾向を維持している。現在、栽培は31の省(及び省級行政区)に及び、産地は次第に南部及び西部へと移動している。

例えば、北西部の陝西省は国内で2番目に大きな生産省として台頭している。重要な技術的進歩として、無休眠栽培の導入があり、これにより従来は栽培されていなかった海南省のような熱帯地域でもブドウが生産できるようになった。

業界では、巨峰、サマーブラック、レッドグローブ、クリムゾンシードレス、ジャンボマスカット、シャインマスカット等、多様な生食用ブドウ品種が栽培されており、新しい品種の拡大が急速に進んでいる。シャインマスカットは種なしで、病気に強く、輸送にも耐久性があるため、南部の省でのプレミアムな旗艦品種となった。しかし、供給過剰により市場価格が暴落し、この品種の栽培面積は今後数年で縮小すると予想される。さらに、生産者や流通業者が見た目と大きさを重視したため、一部のシャインマスカットは本来の風味が損なわれている。神玉、水晶等の新しい品種も引き続き人気を集めている。

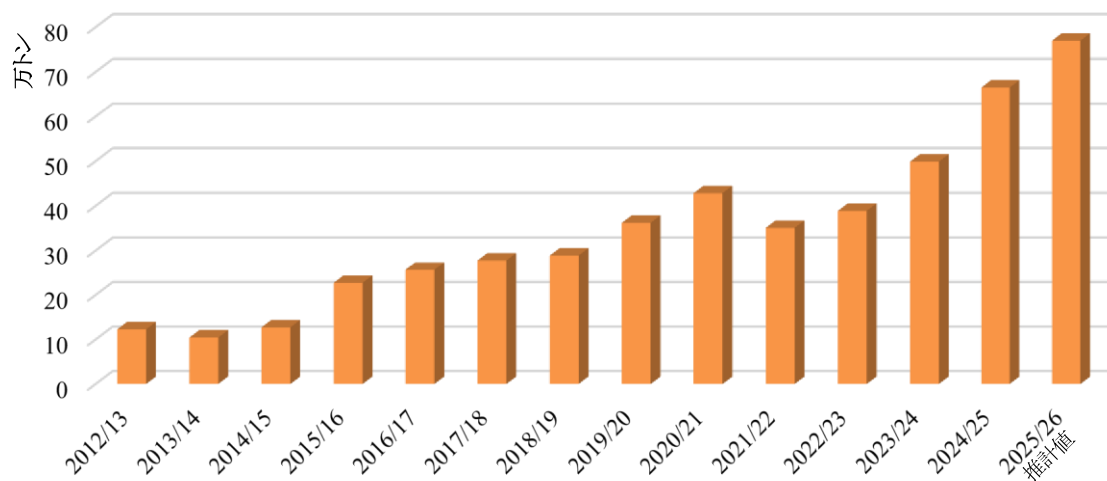
ライセンス栽培モデルも業界で徐々に支持を集めている。ブドウ品種開発の世界的リーダーであるサンワールド社は、オータムクリスピー、スイートグローブ等の品種を生産者にライセンス供与している。報告によれば、これらの新しいライセンス品種の栽培により、雲南省、浙江省、山東省では2～3年以内にシャインマスカットのある程度の代替が見込まれている。

技術の進歩と品種の多様化にもかかわらず、業界は市場の再構築や持続的な供給過剰に起因する課題に直面しており、そのため生産者は栽培面積を縮小している。農業生産上の課題としては、過剰な施肥と灌水による土壌問題、台風や嵐、暑さ、寒さ、霜等の極端な気象条件による被害がある。植物成長調整剤の過剰適用も懸念事項である。さらに、栽培や管理が非常に労働集約的であるため、労働力は構造的な困難を引き起こしている。ある業界関係者によると、品質を向上させるための品種の最適化への一層の取組みが求められる。さらに、必要とされる労働力の削減のためには、新しい栽培方法、材料、技術の導入が必要である。

輸出

生産の改善と品質の向上に支えられ、中国の生食用ブドウ輸出は2025/26年度も引き続き増加するものと予測される。シャインマスカットの低価格がこの増加を直接促進している。例えば、取引業者らはシャインマスカットのロシア向け輸出が前年比で倍増したとしている。中国のブドウ輸出の主要市場は依然として東南アジアで、ベトナム、タイ、インドネシアが牽引している。また、中央アジアと南アジアの市場にも大量のブドウを輸出している。中国は急速に生食用ブドウ輸出における有力な競争相手として台頭し、2024年の輸出量は世界有数のブドウ供給国であるペルーに追い付いた。

図11 中国の販売年度(6月～5月)別生食用ブドウ輸出量



出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所